

3. 高速長田駅 <長田神社と、山陽電車・神戸市電の平面交差>

高速長田駅を降りて、地上に出ると朱色の大鳥居が立っている。鳥居をくぐって進んでいくと神戸三社の一つである長田神社がある。歴史は古く、神功皇后摂政元年(西暦 201 年)に、皇后が新羅より帰還の途中お告げを受けて、創祀されたと伝えられる古社である。全国的にも特長のある行事として、追儺式(ついなしき)(県指定 重要無形民俗文化財)が節分に行われている。節分といえば一般的には、鬼を追い払う行事であるが、追儺式では7匹の鬼(神々のお使い)がたいまつを使って厄を焼き払う、鬼が主役の行事である。近年は混雑するようになったが見学していただきたい。(1963年撮影)



大鳥居に戻って南側を見ると大きな交差点がある。ごく普通の交差点であるが 1968 年までは、経営体の異なる山陽電車と、神戸市電が平面交差するという、珍しい交差点であった。山陽電車(東西方向)は東側終点の兵庫駅と長田駅の間は併用軌道、同じく併用軌道の神戸市電は、長田神社の大鳥居の前で直角に曲がって南北方向に走り、山陽電車と平面交差していた。交差点には無電圧区間(写真の右側の架線部分)を設置していた。

山陽電車は神戸高速鉄道の開通(1968年4月7日)に伴って隣駅の西代駅から兵庫駅間が廃線(山陽長田駅も廃止)となり、現在は地下化し高速長田駅として営業している。

(藤橋 雅尚 記)